



MONTHLY

かわせみ通信

6月号

2026年6月

Vol.202

発行所



ECOLOGY & SCIENCE 株式会社 東海テクノ 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)

TEL.059-332-5122 代 https://www.tokai-techno.co.jp

水をすくえば、生きものが見える？ ～地域生物多様性増進法と環境DNAが変える自然の見える化～

私たちの身近にある川、池、田んぼ、森には、普段は目に見えにくい多くの生きものが暮らしています。しかし、その豊かさを正確に知ることは簡単ではありません。これまでの生きもの調査では、専門家が長靴を履いて川に入り、網で魚や水生昆虫をすくい、石の裏や水草の間を丁寧に探してきました。昆虫調査では、夜に光を当てて虫を集めるライトトラップが使われることもあります。鳥であれば鳴き声を聞き分け、哺乳類であれば足跡や糞、食べ跡などを手がかりにします。まさに、現場に足を運び、目で見て、耳で聞き、手で確認する調査です。

こうした方法は、自然を知るうえで今も欠かせない大切な技術です。一方で、調査には専門知識と経験が必要で、時間も労力もかかります。さらに、生きものは季節や天候、時間帯によって姿を見せたり見せなかったりします。そこにいるはずなのに、調査のタイミングによって確認できないこともあります。

こうした課題に対して、新しい調査手法として注目されているのが「環境DNA」です。環境DNAとは、水や土壌などの環境中に含まれる、生物由来のDNAを分析することで、そこどのような生きものが存在している可能性があるかを調べる技術です。生きものは、粘液、ふん、はがれ落ちた細胞などを環境中に残しています。川や池の水を採取し、そこ

に含まれるわずかなDNAを調べることで、直接魚を捕まえずとも、その水域に生息する魚類などの情報を得られる可能性があります。

この技術が注目される背景には、生物多様性をめぐる社会の変化があります。2025年4月には、自然共生サイトを法制化した「地域生物多様性増進法」が施行されました。自然共生サイトとは、企業の緑地、里山、湿地、河川、沿岸域など、民間や地域の取り組みによって生物多様性の保全が図られている区域を認定する仕組みです。これにより、自然を守る活動は、単なる社会貢献にとどまらず、企業の環境配慮姿勢や地域との共生、ESG・サステナビリティへの取り組みを示すものとして評価される時代に入りつつあります。工



場緑地や社有林、ため池、河川周辺などで生物多様性を保全していることを客観的に示すことができれば、地域社会からの信頼向上や、取引先・投資家への説明材料にもなるでしょう。これまで環境への取り組みは、CO₂排出量や廃棄物量のように、比較的数値で示しやすいものを中心でした。一方で、生物多様性は「自然が豊かそう」「生きものが多そう」といった感覚的な表現になりやすく、その成果を客観的に示すことが難しい分野でもありました。環境DNAは、こうした課題に対して、生物の存在をデータとして把握する手段になり得ます。

もちろん、環境DNAだけで自然環境のすべてが分かるわけではありません。実際の個体数、繁殖状況、生息環境の質、生態系のつながりなどは、従来の現地調査と組み合わせる必要があります。環境DNAは、従来調査を置き換えるものではなく、調査の可能性を広げる新しい道具と考えるのがよいでしょう。

生物多様性を守る第一歩は、そこに何がいるのかを知ることです。自然を「守る」時代から、自然の状態を「測り、記録し、改善につなげる」時代へ。環境DNAは、見えにくかった自然の価値を見える化する、これからの環境調査の重要な道具になっていくのではないのでしょうか。



教えて！
かわせみ先生

お店の裏側の新常識？ 「GAP 認証」ってなに？

「GAP (ギャップ) 認証」って聞いたことあるかな？これは「Good Agricultural Practices」の略で、環境や働く人にも配慮した「良い農業」を実践し、安全な農場だと第三者が認証する仕組みなんだ。

適切な農薬の使い方、水や土壌の安全性、作業者の安全などを厳しくチェックし、問題があれば改善していくんだ。GAPに取り込むことで食品が安全になり、環境も守られるなど、持続可能な農業へと繋がっていくんだよ。一般の認知度はまだ低いけれど、「きちんと管理されている」証明になるため、スーパーや外食チェーンで選ばれやすく、輸出でも求められるなど、今やプロの間では当たり前の基準になりつつあるんだ。実は、当社のような分析会社も、この仕組みの中で使用する水や農薬の有無などをしっかりチェックしているよ。野菜が食卓に届くまでのこうした取り組みを知ると、より安心して美味しく食べることができるね。

東海テクノからのお知らせ

施設園芸・植物工場展(GPEC)に出展 <https://www.gpec.jp/>

7月15日(水)から3日間、東京ビッグサイトで開催される国内唯一の施設園芸・植物工場展「GPEC」に今年も出展します。当社ブースでは、農業支援の軸となる「養液分析」「植物体分析」「肥料・土壌分析」の提案や、安定した栽培を支える「病害診断」などのサポート体制について詳しく紹介します。脱炭素や資源循環へのアプローチなど、これからの農業には科学的な評価がますます求められています。当社の分析技術で皆様の生産をお手伝いできるよう、ご来場を心よりお待ちしております。(ブース:南1ホール M-15)



e-計量のご協力ありがとうございます「Present Tree」植樹活動のご報告

当社は、お客様にご協力いただいた「e-計量」の成果として、森林再生プロジェクト「Present Tree」を通じた植樹活動を継続しています。今年5月17日には山梨県笛吹市にて植樹を行い、2023年からの累計植樹本数は376本となりました。苗木は着実に成長しています。今後も皆様と共に持続可能な未来と地域振興に貢献してまいります。

<https://www.presenttree.jp/>



社員プチコラム

堤 慎一郎 (環境事業部)

「早いものでもう3回目目が回ってきました」寄る年波には勝てずなどと言うと、まだ早いと言われそうですが、最近はずいぶんロードバイクで走る距離が減り、遠出はオートバイがメインになりました。現在の相棒は、Honda CT125 Hunter Cub と クラシックスタイルのHonda GB350C。特にハンターカブは、元々世界中どこでも直せる実用車というカブの思想を受け継いだバイクだけあって、シンプルな構造ゆえに部品を交換したり自分好みにカスタムしたりする楽しさがあります。また、カブ好きが集まるミーティングでは、知らない人同士でも自然とバイク談義で盛り上げられるのも魅力の一つです。



編集後記

今月号は環境DNAやGAP認証など、食と自然の「見えない価値の見える化」をテーマにお届けしました。一見気づかない場所で安全や環境を守る分析技術の重要性を、私も改めて実感しています。その一方で人口減少により林業に携わる方が減り、管理される森が減りつつあります。植樹を通して、広葉樹の生きた森に戻ることを願い、持続可能な環境を望みたいです。(みっちー)

